

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ポータルラボ			
○保護者評価実施期間	2025年1月6日		～	2025年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		～	2025年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(対象者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月12日			

### ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取り組み等
1	日頃から保護者との関わりを重視し、コミュニケーションを図っている。	送迎時や連絡帳での活動報告の他、LINEやメールで気軽にご本人の様子について情報を共有させていただいている。ちょっとした悩みや子育ての疑問なども気軽に伝えていただいて対応を行っている。	制度でも位置づけられた、保護者のグループ相談対応なども実施していきたい。
2	個別支援計画を適切に作成し、保護者に丁寧に伝え、支援にあたっている。	日頃から職員間で支援状況の共有と、丁寧な記録作成を心がけている。支援記録には支援目標を記載し、毎回評価を行い統計をとっている。モニタリング時に確認を行い、利用者の状況について保護者に説明している。記録や状況をもとに支援計画を作成し支援にあたっている。	支援中の利用者の状況把握と、正しく記載された支援記録が重要であると認識しているため、毎回の振り返りを重視し、職員間での共有を図ることを継続する。
3	卒業後を見据えて、現在の生活をどのように過ごしていくかの視点を持ち支援を構築している。自己選択自己決定の機会を作り、自ら希望を伝えていけるように支援を行っている。	中高生の利用者が多いため、思春期の対応を丁寧に行っている。個々の状況に応じて、個別対応の時間を設けている。体調や予定管理、対人関係などの相談対応、自立活動の構築などを行っている。小学生においては、自分のやりたいことや希望を大人に伝え、認めてもらっているという経験を重ねられるような支援を心がけている。	保護者に対しては、現在の状況から将来に向けての見通しが持てるような対応を行い、利用者については、自己理解を深め、自信を持って意欲的に生活していけるような支援を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民や児童館、児童クラブ等の子どもたちとの交流など	障害の程度、不登校、本人の障害受容などさまざまな理由から、外部との関わりについてのニーズがほぼあがってこないこと、情報開示されることへの影響などを考慮し、慎重にならざるを得ない状況にある。	地域の児童館等との接点を持ち、事業所の活動については周知していきたい。地域とのつながりとしてはボランティア学生の受け入れなどを行っていく。
2	活動スペースが狭い	法で決められた設備基準は満たしているが、運動などの活動ではやや狭いと感じる場面もある。	その時間帯の利用者数や活動内容、個々の動きなどを検討しながら、活動スペースを有効にかつ安全に使用できるよう、構造化を図りながら環境を整えたい。
3	非常災害時のための訓練実施やマニュアルについての周知	訓練実施やマニュアルについては契約時のほか、通信、保護者会等でお知らせをしているが、それ以外の周知も必要と考える	実施報告や説明などはこれまでどおり行い、マニュアルについては存在をすぐに確認できるような案内表示や定期的に通信で知らせる、面談時にお伝えするなどの対応を行う。